

万民の福音

シリーズ~福音の力~

2020/12/20

クリスマス礼拝



ルカ福音書 2章1～7節

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

なぜベツレヘムに行ったのか

- ・ 突然出された住民登録命令
 - 皇帝アウグストゥスが全領土の住民に命じた
 - それぞれ出身地に帰り、自分と家族を登録しなければならない(ベツレヘムへヨセフの出身地)
- ・ 預言を成就するために神はローマ皇帝さえ用いられた！
 - 「エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。」(ミカ書5:1)

なぜ飼い葉桶に寝かされたのか

- ・「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」
 - 泊めてくれる親類縁者がいなかった
 - 住民登録のためにベツレヘムに多くの人たちが帰ってきていた
 - 臨月の妊婦のために部屋を空けることはできなかったのか？
- ・「布にくるんで飼い葉桶に寝かせた」
 - 宿屋をあきらめ家畜小屋か羊を避難させる洞穴に身を寄せた
 - 一時的避難のつもりが、そこで産気づき、出産することになった



飼い葉桶



ベツレヘムの洞穴

ルカ福音書 2章8～16節

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼う葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼う葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

天使のお告げ

- ・ 野宿をしながら羊の番をしていた羊飼いに
 - 家畜を扱うこと、安息日を守れないことなどから羊飼いは人々からさげすまれていた
- ・ 伝えられた人類史上最高の喜びの知らせ
 - 「**民全体**に与えられる大きな喜び」
 - 「あなたがたのために**救い主**がお生まれになった。この方こそ主メシアである」
 - 「**布にくるまって飼う葉桶の中に寝ている**乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

拒絶された救い主

生まれたとき

亡くなったとき

宿屋に拒絶される

ユダヤ人に拒絶される

無慈悲と自己中心により

敵意と愚かさにより

飼い葉桶に寝かされる

十字架につけられる

マリアとヨセフが見守る

弟子たちさえ逃げ去る

布にくるまれる

すべての衣を剥がされる

羊飼いたちのしるしとなる

人類の救いのしるしとなる

万民の福音

- ・ 拒絶されるためにこの世に来られた**救い主**
 - 神の好意を拒絶するほど罪深いからこそ救いが必要である
- ・ 拒絶を乗り越える**神の愛** ★
 - 人間の拒絶を裁かず恵みをもたらす手段とされる
- ・ 全ての罪人に与えられている
 - 「**民全体**に与えられる大きな喜び」★
- ・ 同じように神を拒絶する万民に対してイエス・キリストは今も語りかけておられる
 - 私たちは三度拒絶してはならない！

見よ、わたしは戸口に立って、
たたいている。だれかわたし
の声を聞いて戸を開ける者
があれば、わたしは中に入
ってその者と共に食事をし
、彼もまた、わたしと共に
食事をするであろう。

ヨハネの黙示録3章20節